

の下に臥せる富士、田子の浦の富士、清見寺の富士、漣漪に影岳の皺む富士、帆檣林立せる埠頭の富士描かれざる所なきを。而して夢にだも富士を見れば瑞祥ありとして喜ばる。實に奇しき山なりかし。

嗚呼、此の國にして此の山あり。雲上に屹立し泰然として萬古動かざる富嶽の壯觀は、實に宇内に超絶せる神州の國體にも喩へつべし。善い哉、東湖が正氣の歌や、「天地正大氣。粹然鍾神州秀爲不二嶽。巍々聳千秋」と謳へり。富岳は寔に萬古に互れる日本帝國の徵象なり。

◎初 夏

文科二年 岡 田 い し

夜來の雨の名残りは軒端の蜘蛛の巢に止りて今や一碧玉の如き空より射來る日光に映じ或は金緑に或は金紅に輝けり。

讀みさしの書かたへに置きて靜に見遣れば、一庭の新樹雨を帶びて緑一しほ濃なり。燃ゆる火と見し躑躅既に咲き了りてより、棚上の藤花

累々として下りしもの、いつしか莢になりて、葉は層一層その厚さを増し、棚下の池水は、纔に洩るゝ日光に、一點二點、黄金色にきらめくあるのみ。一泓の池水半はこれ蓮、緑柄漸く延びんとして翠蓋未だ疎なり。盛夏の候、曉天に池邊に立ちてその拍々然たる聲を待つ樂しみもこれよりなり。濡色美しき石をふみて庭に下り立つ。苔石上に生じて微風時に輕衣の袖をなぶる。池を環れる新樹搖げば、雨滴水に落ちて小さき波紋順次岸に及ぶものその數無數なり。荷葉動いては玉露滴々として水に聲あり。一株の梅樹、實將に熟せんとして淡黄色の珠、翠緑のひまに隱見す。雨後郭公を聞くの風流なきも青蛙時に木に攀ちて閣々たる、亦可憐の趣なしとせず。

風聲雨色すべて綠了せられたる初夏の天地をのぞめば、萬物悉く生氣に満ちて、前途に多大の希望を有するが如し。清爽の氣心身に漲り、活動の念泔然として起る。宜しく志氣を鼓舞すべきの時なり。

◎作文は讀書にあり

文科一年 山田 嘉都 惠

文章には内容と形式との二方面あり内容は内に含まれたる思想にして形式は外にあらはれたる文字なり此の二つのものをなはりて始めて文章となるなり然れどもこれのみにては未だ眞の文章といふべからずなほ此上に作者の人格あらはれざるべからずこれなくば恰も造花の香なきが如し如何に艶麗なる辭句、豊富なる思想をつらねたりとて遂に生花には如かざるなり故に文を作る上よりいへば作者の人格も磨かざるべからず記すべき材料をも集めざるべからず更にこれをあらはすべき外部の技巧にも熟達せざるべからざるなりこゝに至りて我等は書を多く讀まざるべからず古今の名文聖賢の教の中には或は人道の理を辨まへ品性を高からしむるものあり或は智識を與へ見識を備へしむるものあり或は文章の妙味を會得しこれに對する趣味を生ぜしむるものあり人格高くなれば文章も自ら高くな

とび其間に諧謔滑稽を混じたりとてこれがために野鄙輕薄に陥らざるのみならず却りて讀者をして洒落の趣を味はしむべし智識豊かなれば記すべき材料に苦しまざるが上に些細なる日常の見聞過去の經驗等をも徒らに見過すことなく從ひて觀察力は鋭敏に判斷力は次第に正確になるが故に事物に對してよく公平に眞實に其眞相を傳ふることを得べし趣味生すれば折にふれ物に感じて直ちにこれを文章になさんとの念起るべくかくて多く作る内には自然に外形の美も備はれば作文に必要な條件はいづれも讀者によりて得らるゝものと謂ふべしげに作文は讀書にあるかな

棲守道徳者寂寞一時

依阿權勢者淒涼萬古(榮根譚)

* * * * *